

「ようこそ小学校英語教育学会へ」

小学校英語教育学会は現在、会員数約 550 名を有し、2011 年度からの「外国語活動」全面实施、2012 年度からの新教材「Hi, friends!」導入と小学校における英語の取り組みが大きく変わる中で、その理論と実践への貢献に大きな役割を担っています。

本学会は 2000 年 1 月 22 日に 21 名の発起人が集い、設立となりました。私もその 1 人として、今でも熱気にあふれた討議の様子を覚えています。当時は「英語ノート」も学習指導要領もなく、まさに手探りの状態で同年 8 月 20 日に第 1 回創立大会が行われました。あれから 10 年以上経ち、小学校における英語の時間も様変わりしました。学会としても現在は小学校英語だけを語ることにとどまらず、中学校との連携、そして生涯教育への土台となる英語教育の滑走路としての役割など、ますます課題は増えています。

そのような中、本学会では、これまであった「学会誌編集委員会」、「課題研究委員会」、「ウェブサイト委員会」、「ニューズレター委員会」に加え、新たに「研究推進委員会（仮称）」と「授業実践委員会（仮称）」を立ち上げることにしました。

「研究推進委員会」は、次の学習指導要領改訂など今後の小学校における英語教育を考える基盤となる海外を中心とした文献を集める活動を行います。たとえば学会ウェブサイト「開始年齢」などのキーワードを打ち込めば、文献の要約や書誌情報を会員だけが検索できるようなシステムの構築を目指しています。

「授業実践委員会」は、授業に関するさまざまな実践を全国規模で集め、指導案やワークシートなど、特色ある実践を学会ウェブサイトに掲載して、こちらも会員だけが閲覧できるようにします。「教科型」「外国語活動型」などキーワードによる検索も可能なデータベースを作っていきます。

これら 6 つの委員会を通じて、年に 1 回大会を開くだけの学会から脱皮し、学会として日々、理論および実践研究の蓄積を行い、その上で客観的に討議が行われるような土台となる場を出来るだけ多く作ることが出来ればと願っています。

本学会は、特に、小学校の教室現場におられる先生方と、大学の研究者、そして、教師や研究者を目指す大学院生・大学生が同じ立場で、理論や実践について語り合うことが出来るという大きな特色を持っています。実践者は、長年の実践経験から得た勘だけで語るのではなく、実践の根拠となるものを研究成果から導き、普遍の真理として一般化していくことを目指しましょう。一方、研究者は、教室現場という目的を見失うことなく、また、難しい理論を難しいまま現場の先生方に語ることはないよう、常に教育的示唆を求めていきましょう。

これからも、理論が教室現場の実践から真摯に学び、また、理論に裏付けされた確かな実践を行うことが出来るよう、理論と実践の統合を目指していきたいと考えています。

小学校英語に関わるみなさまが 1 人でも多く、この輪に加わって頂けることを願っています。

2012 年 4 月 5 日

会長 卯城 祐司（筑波大学人文社会系 教授）